

裾野市もののふの里銘酒会

静岡県裾野市

<http://www.3776-mononofu.com>



組合概要

発足年 1992年(平成4年)
組合員数 7人
(賛助会員として蔵元2店)

組合の組織

組合役員数 5人
出資金 なし
賦課金 月：1,000円

組合員構成

専門食料品：7店

地域の酒屋さんが地域ブランドの酒を開発し、販売

富士山の静岡県側の麓にある裾野市。そこはかつて源頼朝が巻狩りをした場所。酒販の規制緩和により、町の酒屋さんの商売環境が厳しさを迎えるなか、平成4(1992)年、裾野市の酒販店により裾野市もののふの里名酒会が設立された。同年に企画して販売されたのが清酒「もののふ」で、この日本酒を皮切りに、平成9(1997)年「純米すその」などオンリーワンの地域限定のブランド品を開発し、販売してきた。

酒の醸造は、県内の醸造メーカーに委託し、会員の酒販店で限定販売する。日本酒だけにとどまらず平成12(2000)年「すそのいちごワイン」、平成19(2007)年には本格茶焼酎「富士山すその三七七六」を発売した。富士山麓の原材料及び富士山の伏流水で醸し出すことに加え、茶焼酎は、富士山の標高に合わせた3776本の限定販売とし、シリアルナンバー入りなど話題性を加味した。その後も、富士山にそっくりな「富士山とっくり」、またお土産用の「ちょうし富士山」などを平成21(2009)年、平成22(2010)年に相次いで発売してきた。

地道な活動を地域の人たちに広める発表の場が、毎年開催される「地酒の夕べ」で、普段お世話になっている地域住民や生産者を一堂に集め、交流を重ねている。ブランドの核となっている富士山は、平成25(2013)年に世界文化遺産に登録され、その地元として盛り上げるための活動はいまも続けている。

さらに、ラグビーW杯及び東京オリンピックに向けた企画品やロゴマークなどの製作も既に動き出しており、完成間近である。